

Profile

—プロフィール—

高原 守 (たかはら まもる) 指揮・音楽監督



ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブルの音楽監督および常任指揮者を務める高原守は、国立音楽大学卒業後、ニューヨーク・フィルハーモニック・オーケストラの桂冠指揮者であるレナード・バーンスタインより、彼の所で学ぶ機会を与えられたのを機に1972年4月に渡米した。

76年にニューヨーク・フィルハーモニックの

メンバーを中心に構成されていたフィルハーモニア・ヴィルトージ・オブ・ニューヨークを指揮して、ニューヨークデビュー。以来79年春にニューヨーク・シンフォニック・アンサンブルの原型であるニューヨーク・メトロポリタン室内管弦楽団の音楽監督を務め、日本演奏旅行にも参加した。85年には大阪国際フェスティバルやつくば博などでの演奏旅行で、彼らのニューヨークらしい演奏が好評を博した。

88年からは毎年日本公演を行っており、特に唐招提寺(奈良)での演奏が注目され、高い評価を得た。その後も日本の伝統と歴史的に意味深い場所である出雲大社(島根)、厳島神社(広島)、そして明治神宮(東京)などで演奏し、東西文化の見事な融合を創り出して大成功を収めている。また、日本を代表するさまざまなジャンルのソリストたちとの共演は常に話題を呼んでいる。

90年からは8カ国を巡る東南アジアツアー

を3回行い、さらに毎年ニューヨーク国連本部での表彰式典の演奏を行うなど、国際交流に大きく貢献している。「生活の中に音楽を!」と願う高原のメッセージは、数多くの合唱団、合奏団や学生の皆さんとのジョイント・コンサートという形で具現化しており、音楽教育にも積極的に参加している。2000年5月31日には、ニューヨークのカーネギーホールにて、東京の福祉施設「ゆきわりそう」に通う障害者で作る合唱団およびニューヨークの合唱団とベートーベンの第九を演奏し、会場は温かい拍手に包まれた。また、2003年の日本公演では、静岡県藤枝市の総合病院にてロビーコンサートが実現。音楽の持つ癒しの力を再認識できる穏やかな空気に包まれたコンサートとなった。平成21年度外務大臣表彰を受ける。クラシックの枠にとらわれないユニークな音楽活動が、益々期待されている。

鈴木健史 (すずき たけふみ) ヴァイオリン



サレジオ学院中・高等部、東京音楽大学卒業後、NYマネス音楽院に進み、ディプロマ取得。学部長推薦による全額奨学生としてポストン大学大学院に入学。D. オイストラフの高弟マズルケヴィッチ夫妻に師事、Director's Award受賞。ニューヨーク、ボストンにてリサイタル開催。ヨーロッパ、アメリカ、カナダの音楽祭コンサートに出演。帰国後「緑区制30周年記念・緑区民音楽祭新人演奏会」、「横浜国際交流ラウンジ主催コンサート」に出演など、ソリストとして活動を展開するかた

わら教育活動にも積極的に取り組んでいる。数多くのチャリティーコンサートにも出演。05年よりNYSEの日本公演にゲスト参加。09年2月横浜開港150周年記念コンサートで、高原守指揮の開港記念オーケストラの主席を務めた。8月NYSEとメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲を共演。9月朝日新聞大阪本社アサコムホール主催のリサイタル出演。いずれも好評を博した。来年2月、磯子芸術文化祭に出演。フィギュアスケートでよく使われる名曲の数々を演奏の予定。

The New York Symphonic Ensemble

(ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル)

管弦楽



指揮者高原守が率いるニューヨーク・シンフォニック・アンサンブルは1979年ニューヨーク・メトロポリタン室内管弦楽団として発足し、その後まもなく現在の名称に改められ、今年で30シーズン目を迎える。

団員はメトロポリタン・オペラ・オーケストラのメンバーをはじめとした、ニューヨークを中心に第一線で活躍している演奏家で構成されており、メトロポリタン・オペラ・オーケストラの特色である優れた旋律が、彼らの創り出す音楽に備わっている。またソロ活動に意欲的で、優れたキャリアをもつ有名なアーティストが多数加わっているため、ソロをフィーチャーした作品を多くレパートリーとしている。

毎年、ニューヨークの国連本部で開催されるUNFPA(国連人口基金)の表彰式典では、世界中の受賞国の音楽をアレンジした演奏で好評を博している。ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブルの活動のユニークさは、いかにもニューヨークらしい明るく透明でハートにしみるような魅力的な演奏をしているというだけでなく、世界中の若き演奏家たちを育て、広く紹介しているという点にある。

『トミーポルカ』について

1860年、江戸幕府最後の侍たちが日米修好通商条約批准のためアメリカを訪れ、ブロードウェイで紙吹雪の大歓迎を受けました。通訳として同行していた16才の少年がトミーと呼ばれ大変な人気者になり、その名を取って生まれた曲が「トミーポルカ」で、当時アメリカで大流行しました。

150年ぶりにNYSEは6月16日と24日にNYでこの曲を演奏します。時代を超えてよみがえり、開港の舞台、関内で演奏できることを楽しみにしています。